



今持っている「株」「投資信託」は
売るべきか？

これから伸びる「株」「投資信託」は
何か？

景気の波に一喜一憂しない、

強い投資家になるための本

はじめに

「2008年」というのは、まちがいなく歴史に刻まれる年になるでしょう。

世界中のマーケットがパニックになり、金融機関は破綻の淵まで追いやられ、金融商品は目も当てられないほどの下げを記録しました。そしてまた、多くの個人投資家が含み損を抱え、奈落の底まで株価は下がるのではと心配をし眠れない夜を数えていたのが現実です。

ようやく、2009年3月を過ぎたあたりから、少しずつですが経済の悪化も底打ち感が出てきました。暴風雨が来るときは、ただ身を屈めているしかありませんが、暴風雨も過ぎ去ろうとしている今、私たちは再び地に足をつけ、その被害の修復をし、暴風雨の後に必ずくる、抜けるような快晴に備えておくべきことがたくさんあります。

投資というのは、競馬やパチンコのようなギャンブルとは違います。「賭け」とは1か0かの世界ですが、「投資」は1か0.5になった後に2になるものです。現在は投資した1が0.5になっている状態ですが、ここで投資したことを後悔したり、あきらめてはいきません。

将来のことは考えてもわかりません。わかっているのは、過去にこういうことが何回もあつたということと、それを乗り越えてきたということです。そして、わからない明日を憂うより、わかっている今日を直視すべきです。

では、わかっている今日とはなんでしよう。

それは、株価が歴史的な割安水準にあるということです。

3年前まで18000円していた日経平均が8000円まで下がり、PBRは1倍割れ。要するに、あなたの立つバットーボックスに、どまん中の直球がどんどんと投げ込まれている状況です。あなたは1度や2度、難しい球を振ってしまったからといって、バットーボックスでどまん中の球を呆然と見送る必要はありません。

ここでバットを振らなければいつ振るんでしょうか。歴史的な大バーゲンセール中のマーケットを目の前にして、何もせずボーとしていたら、あなたの資産は増えません。

今まで私は、著書やセミナーで積立投資をすすめてきましたが、この方法は依然有効です。積立投資のいいところは、まわりがパニックになってチャンスに気づいていないときにも、自動的にバットを振ってくれていることです。

この本ではさらに一歩踏み込んで、現在大幅な評価損を抱えていて何も対策を打てていない人、どうやって評価損を埋めればいいのか知りたい人、今は買いのチャンスだと思っているがいまち自信がない人、そんな方々に対しての処方箋を述べています。

ぜひこの本を読み、今までの傷を癒し、来るべき強気相場に備えて、やるべきこと、つまり割安なときに株式を買っておくということを実行してください。